

柱は建物にすれば5階建ての高さ。登り切れば人の顔も判別できないほどだという。柱の途中で一度逆さになりながら登り、上では矢を放ち、逆立ちをし下り綱を降りるときにも途中で脚でぶら下がった後に、逆上がりと、命綱なしの難しい演舞が続く。



昭和から平成にかけて二人ジュウジロウサンはたった3回

続けて着実に成長していたので安心していましたよ」とのことでした。平成25年、満を持して江田さんが本番の舞台に上がります。25、26年には2人のジュウジロウサンによる演舞が行われました。

岡田さんは27年を最後とするという決断をされました。「信頼できる後継者が育ったので、道を譲ることも役目だと思えます」と、江田さんへの期待を込めて語っていただきました。

違って綱は、体重をかければぐるぐる回ってしまうから大変です」そんな江田さんを見ていた岡田さんによれば、「あきらめずに熱心に

野田津久舞保存会

ジュウジロウサンと共につく舞を支えているのが、野田津久舞保存会です。

保存会では、つく舞の準備、運営のほか、舞手・お囃子連^{はやし}の育成、小学校でのクラブ活動補助、夏祭りへの協力、民俗芸能発表への参加などの活動を行っています。

【事務局】野田商工会議所：担当 山本
☎7122-3585

江田和輝さん